

総 説

1 沿革・地勢

昭和 29(1954)年 3 月、芦品郡府中町、岩谷村など周辺6カ町村が合併して市制を施行し、現在の府中市が誕生しました。その後、芦品郡河佐村、御調郡諸田村及び御調町三郎丸地区の一部を編入、また、昭和 50(1975)年 2 月、芦品郡協和村、平成 16(2004)年 4 月に甲奴郡上下町を編入合併し、現在の市域となっています。平成 26 年(2014)年 3 月には市制施行 60 周年を迎えました。

本市は、広島県の東南部内陸地帯に位置し、面積の大半が山地で、三方を山で囲まれ盆地を形成し、西北部から東南部にかけて、県内三大河川の一つである芦田川が縦貫しています。その流域の両側には平野が広がり、美しい山並みを背景に、住宅、商店、工場などが立ち並び、市街地が展開されています。山系は、神石及び世羅方面から伸びた中国山脈の余脈で、標高 400m~770mに及ぶ小規模連山が市街地の西・南・北部を囲んでいます。

河川は、源を三原市大和町の溪谷に発し、世羅盆地を貫流し本市に流入、さらに福山市を経て瀬戸内海に注ぐ、芦田川水系と江の川水系に属しており、分水嶺の町として知られる上下町は福山・三次両市の中間の高地で陰陽の分水界をかたち作っています。

市街地では、律令時代の頃、備後国府が置かれていたと伝えられ、数多くの遺構・遺物が出土し、現在備後国府の解明に向けて、発掘作業が続けられ、平成 24(2012)年には、発掘開始 30 年を迎えました。また、幕府の天領として栄えた上下町の白壁の街並みや、銀山街道などは貴重な歴史的遺産です。

府中市は田園都市として発足後、伝統産業の育成に努め「府中タンス」、「鋳造品」、「備後かすり」、「府中みそ」などは時代の変化に対応しながら地場産業として発達しました。「非鉄金属ダイカスト製品」、「建設・工作機械」、「施盤用チャック」などの近代産業はたゆまない企業努力により驚異的な発展を遂げ、「リヨービ」、「北川鉄工所」、「ヤスハラケミカル」、「北川精機」は上場し、全国はもとより世界中に販路を拡大し、飛躍を続けています。

しかし、工業の順調な発展に伴い、市街地内の用地の狭さや公害問題などが生じてきました。そこで、住・工分離を図り快適な生活環境の確保とともに、工業を一層発展させる目的で、昭和 50(1975)年 5 月に、市の中心より北東の山間部に「本山工業団地」を造成しました。その後さらに工業用地の需要に対応するため、平成 3(1991)年 9 月には「本山工業団地」に隣接して「鶴飼工業団地」を造成しました。また、地場産業の高度化と人口の安住促進のため、平成 13(2001)年 4 月には「鶴飼工業団地」に隣接して、「桜が丘団地」を造成し分譲を進めています。

これらの住宅・工業団地の造成によって、生活環境や操業環境の向上といった初期の目的を達成することができた半面、市街地の無秩序な拡散や、商業の国道沿いへの転出によって中心市街地の空洞化が進むなど、課題も残されたため、「恋しき」の保存・再生や中心部を南北に貫く市道(府中お祭り通り)の拡幅など、課題解決に向け取り組みました。また、平成 25(2013)年には生活に必要な機能がコンパクトに集まり歩いて暮らせるまちの実現を目指した「府中市中心市街地活性化基本計画」が内閣総理大臣の認定を受け、引き続き中心市街地の活性化に向け着実な一歩を踏み出しています。

近年では、府中市のソウルフードとして親まれてきたお好み焼きで地域活性化を目指そうと、市内外のお好み焼き店 38 店が加盟する「備後府中焼きを広める会」を結成、平成 22(2010)年に神奈川県厚木市で開催された第 5 回 B-1 グランプリに初出場し、その後、県内外の出展要請に応え活発な活動が行われ、全国にその名を広めています。平成 26(2014)年 3 月には、「2014 関西・中国・四国 B-1 グランプリ in 府中」の開催地となり、市内外から多くの家族連れらで賑わい、目的である地域活性化に大きく貢献しました。平成 27(2015)年 1 月にまちの目印・観光の道しるべとしてオープンした「地域交流センター」にも、観光案内所に併設する形でお好み焼き店が構えられ、

観光資源である「府中焼き」の魅力を発信しています。

文化面では、市立図書館が平成 4(1992)年 5 月に開館し、中心市街地の地域の景観にマッチした外観で市民に親しまれています。さらに平成 16(2004)年 4 月に保健福祉総合センター「リ・フレ」が開館し、子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが毎日をもっと楽しく健康に暮らすため、体力づくりと生きがいづくりができる交流館が誕生しました。また、市民の生涯にわたって行う学習活動を支援する拠点として、平成 17(2005)年 4 月に生涯学習センター「TAMスクエア」が開館し、多くの市民に利用されています。

教育面では、全国の先駆けに当たる平成 16(2004)年に小中一貫教育を導入し、義務教育9年間の充実をはかるとともに、現在は「府中学びプラン(府中市教育推進計画)」に基づくさまざまな教育施策を行っています。近年では、学校運営に地域・保護者の声を生かし、地域総ぐるみで子どもたちに関わる「コミュニティ・スクール」の全市導入・充実に向けた取り組みを進めており、平成 26(2014)年に府中明郷小学校・府中明郷中学校を、平成 27(2015)年に栗生小学校・南小学校を「コミュニティ・スクール」に指定しました。また、平成 26(2014)年 1 月には、県内でもいち早く全小中学校の耐震化を完了し、学びの環境を整えています。

子育て面では、病後児保育、延長保育などの特別保育を充実させるため、平成 21(2009)年 4 月に「広谷保育所」、平成 22(2010)年 10 月に「国府保育所」が子育て支援センターを併設して開所し、未就学児の子育て相談にも対応しています。子どもたちが「遊び」「楽しみ」「考え」「創り」「学ぶ」施設、“府中市こどもの国 POM(ポム)”の中核になる児童会館は、プラネタリウム室、天文台ドーム及び多目的ホール等を備え、さらに、まわりには桜づつみ、水辺のプラザ、ラジコンカーのサーキット場も整備され、多くの市民の憩いの場となっています。

医療面では、平成 24(2012)年 4 月、府中北市民病院とJA府中総合病院(現府中市民病院)を経営統合し、両病院を運営するため地方独立行政法人府中市病院機構を設立しました。この 2 病院は、府中市が目指す医療を担う病院として、地域医療再生の中核となる役割を果たしています。平成 27(2015)年 12 月には、府中市民病院の改築工事が完了し、翌年 2 月から新病棟での診療が開始されました。

交通面では、都市計画決定をした府中新市線や府中南北道路(府中松永線・新山府中線)の整備が進められています。特に府中南北道路は、扇橋周辺の安全確保や渋滞解消のほか、山陽自動車道福山西ICとを連絡する主要幹線の機能を併せ持ち、その早期完成が望まれているところです。

2 位置

本市は、広島県の東南部内陸地帯に位置し、福山市へ 18.5km、三原市へ 40km、県北の中心都市・三次市へ 65kmの地点にあり、北緯 34 度 34 分 06 秒、東経 133 度 14 分 11 秒、海拔 27m(府中市役所)にあります。

市域は、東西 17.13km、南北 25.54km、面積 195.75 km²、東南は福山市、西は尾道市及び世羅郡世羅町、北は三次市、庄原市、及び神石郡神石高原町に隣接しています。

市街地を中心に主要な道路が東西南北へ放射状に走り、道路網を形成しています。国道 486 号、愛称「山陽ふるさと街道」が芦田川に並行して市街地を東西に貫通し、東は国道 182 号を経て山陽自動車道及び国道 2 号線に連結し、西は、尾道市において国道 184 号に結ばれています。北に延びる県道府中上下線は上下町において国道 432 号と接続し、中国自動車道及び山陰地方に通じています。平成 27(2015)年 3 月には尾道松江線が全線開通し、沿線地域への社会経済・生活文化の発展に寄与することが期待されています。南に向かい松永湾に通じる府中松永線などの県道は、近隣市町を結ぶ動脈となっています。

鉄道は、JR福塩線があり、通勤・通学などに利用され、古くから親しまれています。福塩線は、福山市で山陽新幹線・山陽本線と結ばれ、三次市において芸備線・三江線と連絡し陰陽連絡鉄道としての役割を果たしています。